

## 2 生活実態・集落運営の動向

### ① 交通手段

世帯の高齢化に伴い、今後車の運転が困難となり、買い物、通院など日常生活に支障が生じる世帯が急増することが予想される。

#### (1) 車の運転が困難となる世帯が増加

免許証を保有している人がいる世帯(1,807世帯)のうち、「運転免許保有者が60歳以上の方だけの世帯」が全体の約33%を占め、そのうち、「70歳以上の方だけの世帯」は全体の約20%となっている。

<70歳以上の方だけの世帯>

H18調査：228世帯(16%) → H23調査：368世帯(20%)

#### (2) 車を使っての食料品等の買い物に困窮する世帯が増加するものと想定

回答のあった、車を使って買い物に出かける総世帯数(1,633世帯)のうち、「60歳以上の方が主に買い物に行く世帯」が全体の42%を占め、そのうち「70歳以上の方が主に買い物に行く世帯」は22%となっている。

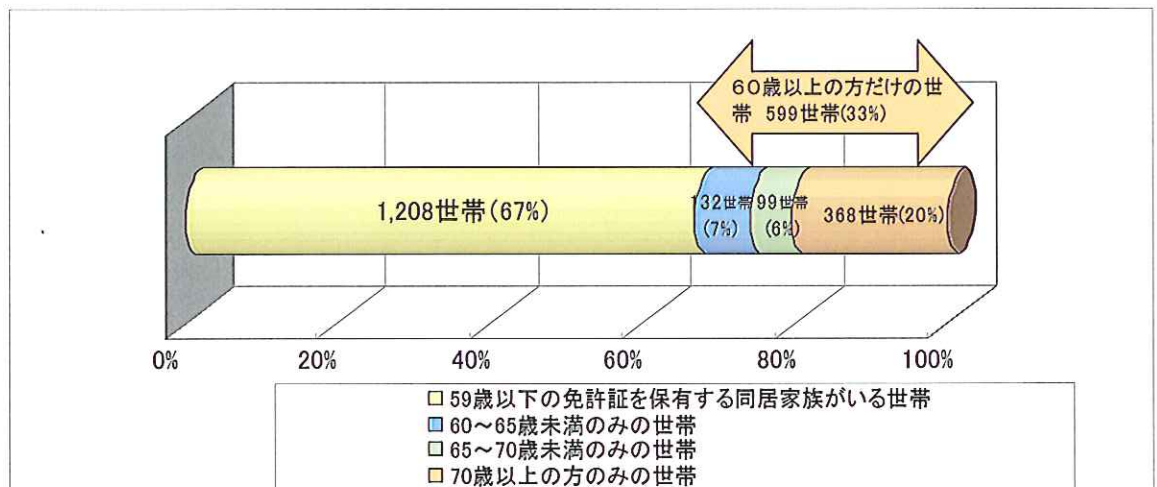
高齢化の進展に伴い、車を使っての買い物等に困窮する世帯が増加していくものと想定される。

<70歳以上の方が主に買い物に行く世帯>

H18調査：194世帯(16%) → H23調査：367世帯(22%)

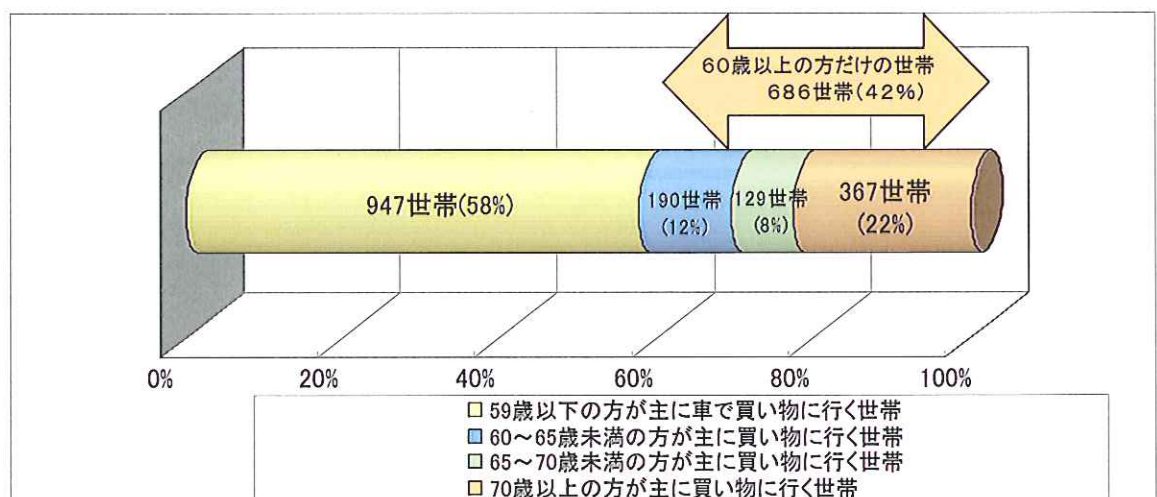
#### (1) 運転免許を保有している世帯の年齢構成

(ア) 免許証を保有している人がいる世帯の総数 1,807世帯



#### (2) 車で買い物に出かける世帯の年齢構成

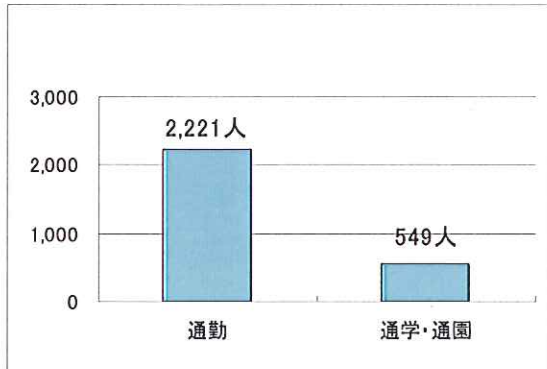
(イ) 上記(ア)のうち、車で買い物に出かける人がいる世帯の総数 1,633世帯



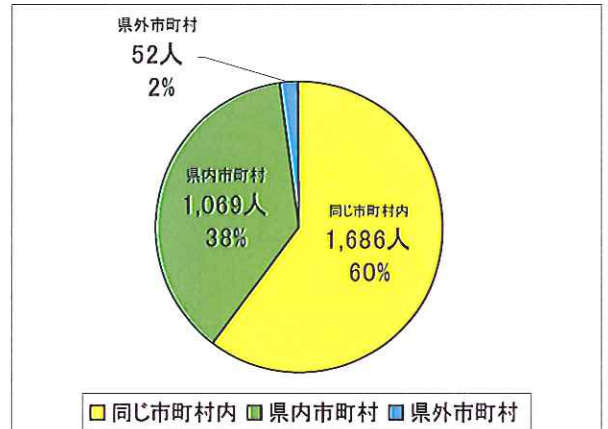
② 通勤・通学状況

通勤、通学の範囲は同一市町村内が多く、片道の所要時間は30分圏内が多い。主な交通手段として、約8割の方が自家用車を利用している。

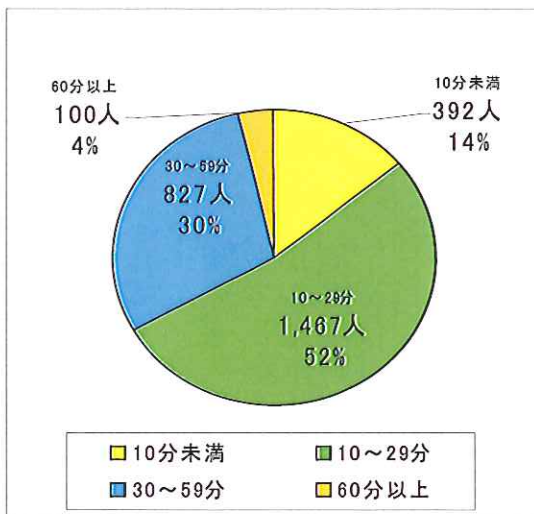
(1) 通勤・通学の別



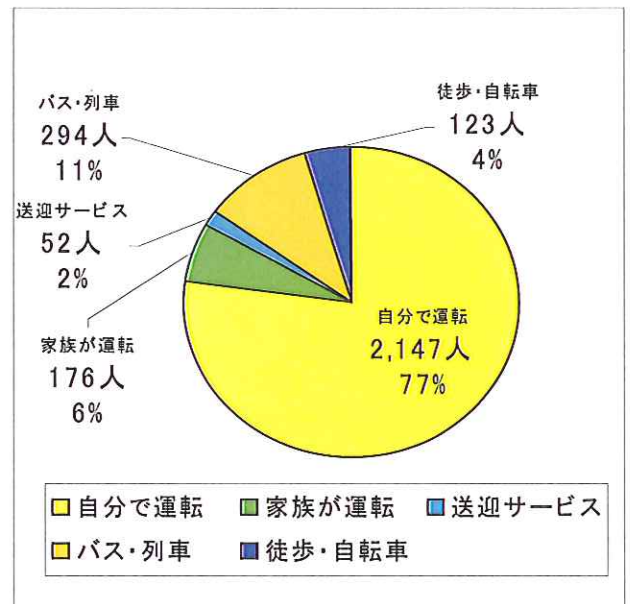
(2) 通勤・通学の範囲



(3) 片道の時間



(4) 主な移動方法



※ 調査票の回答にあたり、正確に記載されていない箇所（(1)通勤・通学の分類の別）があったため、(1)の人数計と(2)～(4)の人数計との関係が不均衡な状態となっています。

(正) … (1)の人数計 ≥ (2)の人数計, (3)の人数計, (4)の人数計



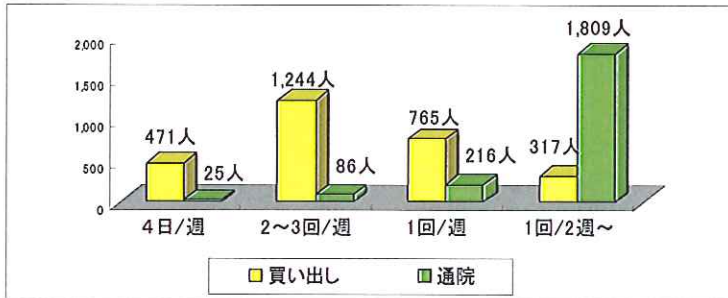
### ③ 買い物・通院

買い物：週2～3回程度、同一市町村内で、30分以内の場所に、自ら運転して出かける人が多い。

通院：2週間に1回程度、同一市町村内で、30分以内の場所に、自ら運転して出かける人が多い。

車の運転が困難となる高齢世帯が増える中、移動手段の確保、移動サービスの提供等の必要性がますます重要となってくると想定される。

#### (1) 買い物・通院の回数



#### 傾向

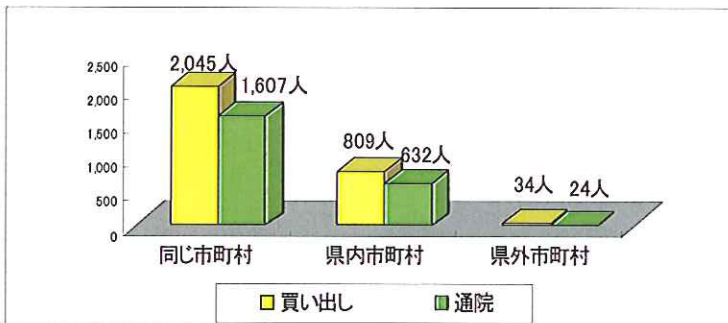
##### ■買い物

→週2～3回程度(44%)  
(1,244人/2,797人)

##### ■通院

→2週1回程度(85%)  
(1,809人/2,136人)

#### (2) 買い物・通院の場所



#### 傾向

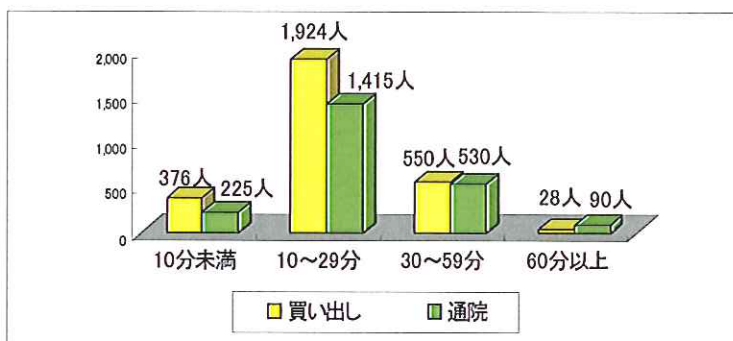
##### ■買い物

→同一市町村内(71%)  
(2,045人/2,888人)

##### ■通院

→同一市町村内(71%)  
(1,607人/2,263人)

#### (3) 買い物・通院に要する時間(片道)



#### 傾向

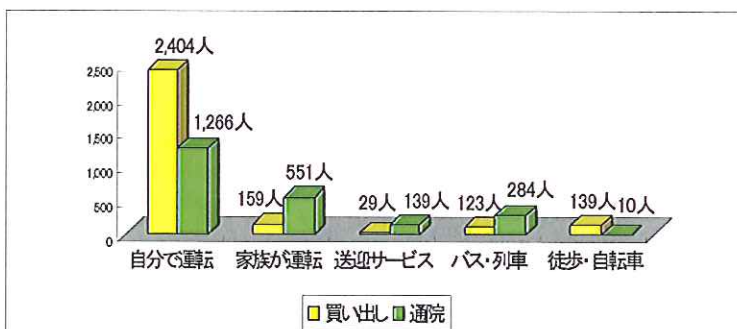
##### ■買い物

→10～29分(67%)  
(1,924人/2,878人)

##### ■通院

→10～29分(63%)  
(1,415人/2,260人)

#### (4) 買い物・通院の方法



#### 傾向

##### ■買い物

→自分で運転(84%)  
(2,404人/2,854人)

##### ■通院

→自分で運転(56%)  
(1,266人/2,260人)

④ 生活物資の入手

ほとんどの世帯で食料品の調達と同居家族が行っているが、世帯の高齢化に伴い、車の運転が困難となり、同居家族による調達が困難となる世帯が増加することが見込まれる。

今後、移動販売サービス等へのニーズが高まるものと予想される。

(1) 食料品の調達は同居家族での調達がほとんど

同居家族内で食料品の調達ができない世帯は、大半が別居の家族、親族に依頼して調達しており、週1回ペースでの調達が多数。

(2) 食料品の入手先は町内スーパー・小売店舗が大半を占めている。

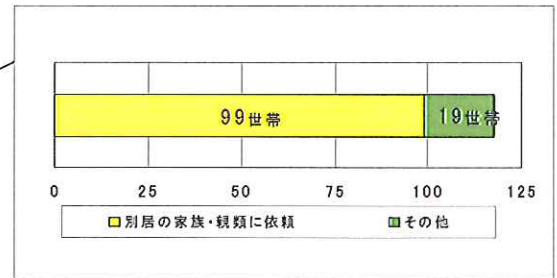
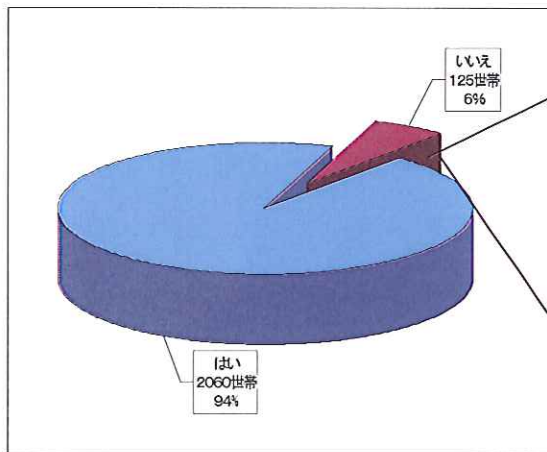
町内スーパー・小売店舗、市街地大型店舗、移動販売車両の順で利用されている状況。

(3) 移動販売サービスの利用

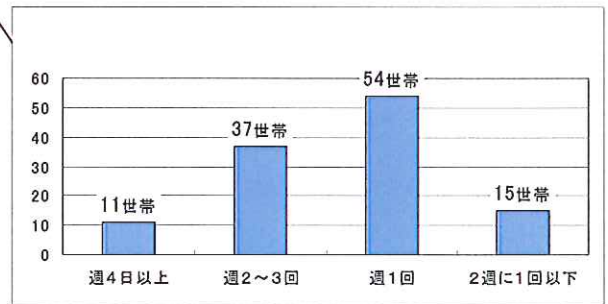
53%の集落(59集落)で移動販売サービスが行われており、週1回～2回の巡回が多い。

(1) 食料品の調達方法等

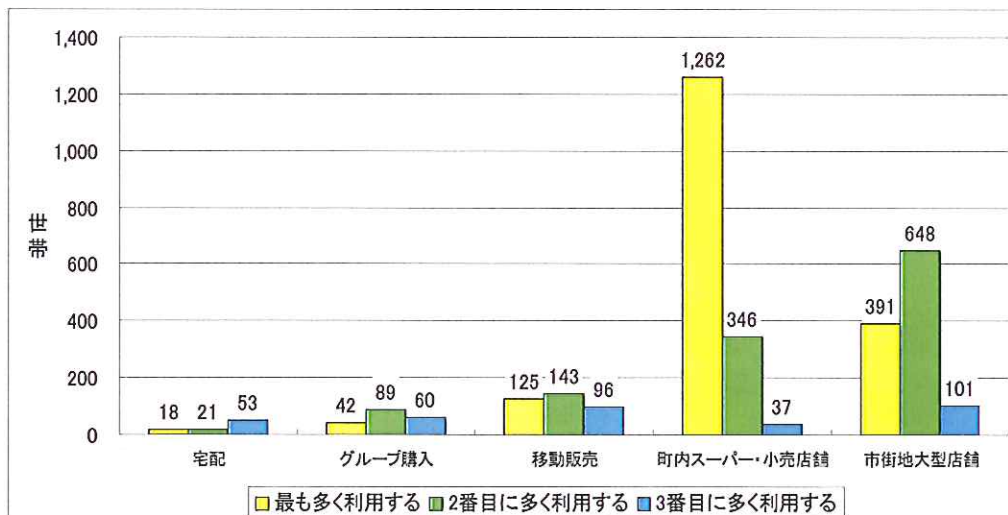
■食料品は主に同居家族で調達されていますか？ ■どのように調達していますか？



■食料品の調達の頻度はどれくらいですか？



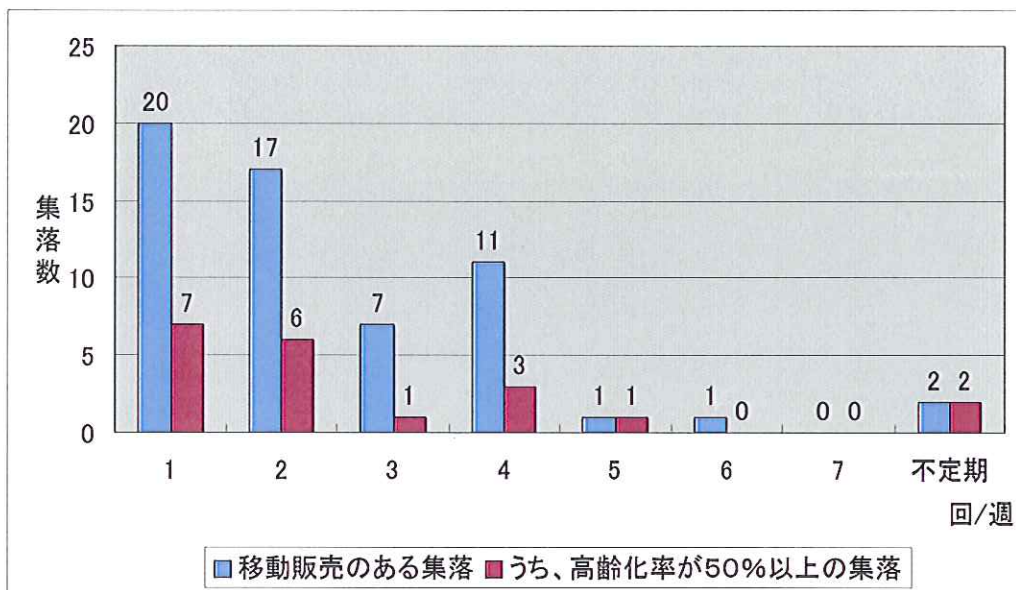
(2) 主な買い物先 (同居家族で調達する世帯)



(3) 移動販売サービスの状況

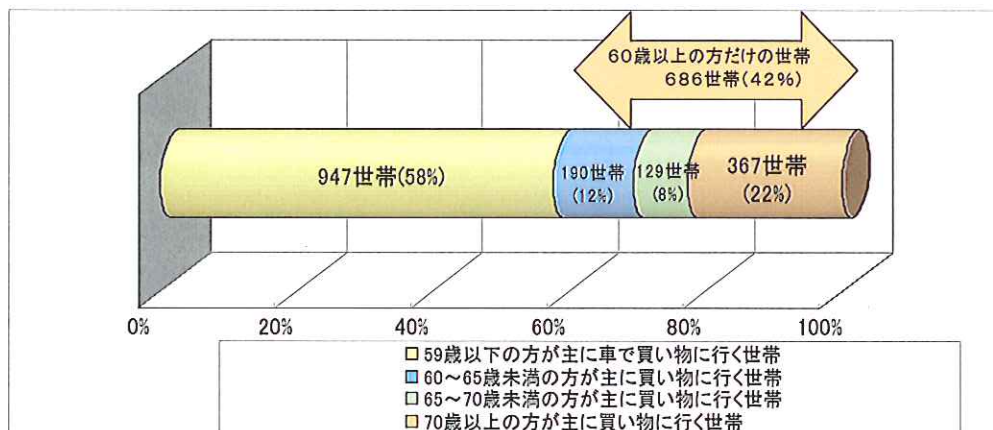
	H18調査	H23調査	H18との差
移動販売のある集落	40集落	59集落	+19集落
全体の割合	43% (40集落/94集落)	53% (59集落/111集落)	+10%
高齢化率50%以上の集落	36集落	36集落	増減なし
うち、移動販売のある集落	9集落 (25%)	20集落 (56%)	+11集落 (31%)

※H18調査については、94集落から回答



【参考】車で買い物に出かける世帯の年齢構成（再掲）

車で買い物に出かける人がいる世帯の総数 1, 633世帯





### ⑤暮らしの様子

休日の過ごし方として、夏は農作業、家庭菜園をする世帯が多く、冬は雪かきをする世帯が多い。

冬季に使用する暖房器具として灯油を使用する世帯が多く、高齢化に伴い、配達を必要とする世帯の増加が想定される。

#### (1) 休日の過ごし方

夏：農作業、家庭菜園が最も多く65%。次いでテレビ、ラジオの視聴が10%。

冬：雪かきが53%、次いでテレビ・ラジオの視聴が21%。

雪かきは時間と労力を費やし、とりわけ高齢者世帯に大きな負担を強いている。

#### (2) 冬季・夏季の居住状況

冬季の豪雪を避けるなど、季節による住み分けをしている世帯がある。

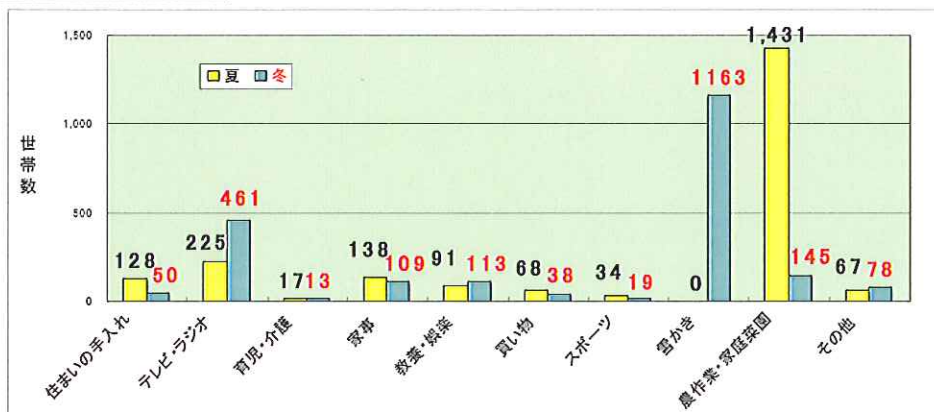
#### (3) 冬季に利用する暖房器具

灯油を使用した暖房器具を使用する世帯が多く、高齢化に伴い、配達を必要とする世帯の増加が予想される。

#### (4) ゴミ収集の頻度

ほとんどの集落において2回/週のゴミ収集が行われている。

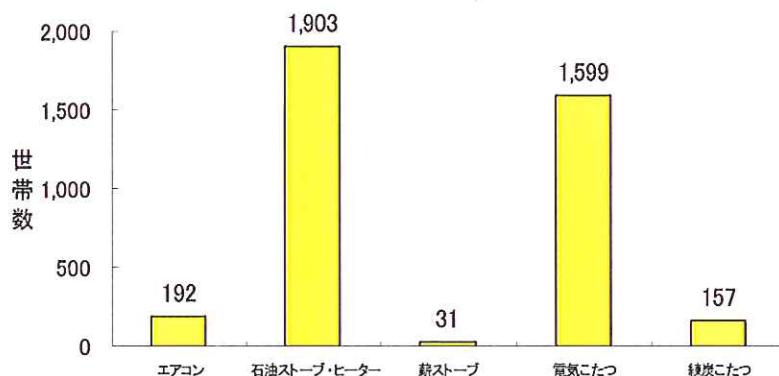
#### (1) 休日の過ごし方



#### (2) 冬季・夏季の居住状況

- 1年中居住している 2,162世帯 (95%)
- 夏の間だけ居住している 8世帯 (0.3%)
- 冬以外は居住している 21世帯 (1%)
- その他・未回答 81世帯 (3.7%)

#### (3) 冬の間多く使用する暖房器具 (複数回答)



#### (4) 可燃ゴミ収集の頻度

- 週2回 107集落
- 自家処理 2集落
- その他 2集落 (月1回：1集落、年2回：1集落)

### ⑥暮らしの安心情報

暮らしの安心情報（防犯、防災、事故等）に係る情報は主にテレビから得ており、防災無線も暮らしの安心情報の取得に重要な役割を担っている。

#### (1) 自宅にある通信機器

通信機器を所有する世帯の比率は固定電話 97%、ファクシミリ 34%、携帯電話 75%、パソコン 34%となっており、固定電話は依然として連絡をとるための有効な通信手段となっている。

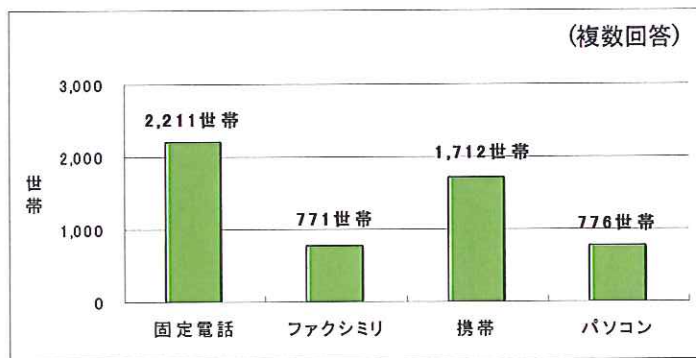
#### (2) テレビの受信チャンネル

すべての調査集落で主要5局の視聴が可能であり、その差は大きくない。

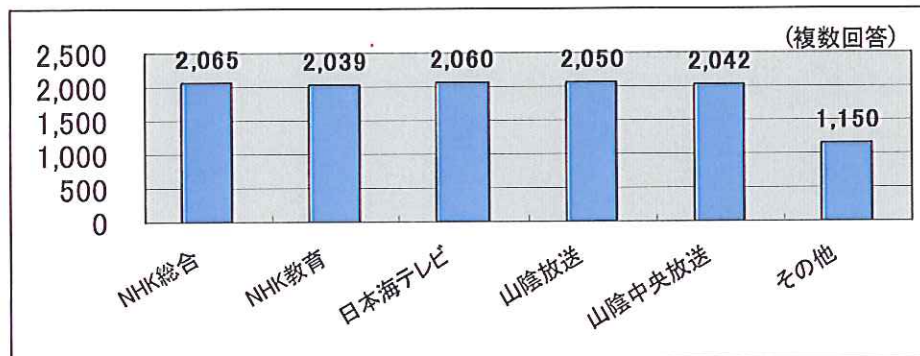
#### (3) 暮らしの安心情報の入手先

暮らしの安心情報を得るための手段としては、大半がテレビ、新聞、防災無線となっている。

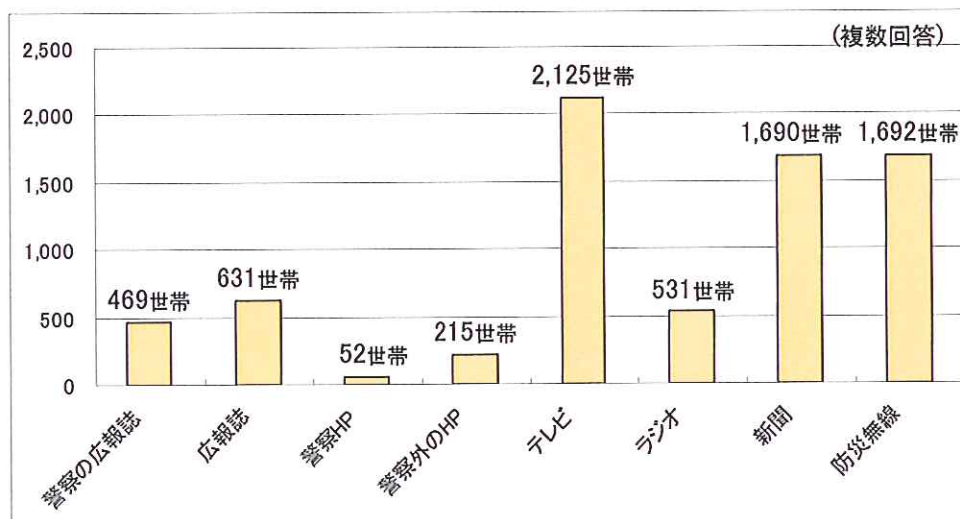
#### (1) 自宅にある通信機器



#### (2) テレビの受信チャンネル (地デジ対応が完了した 2,073 世帯の受信状況)



#### (3) 暮らしの安心情報の入手先





## ⑦情報インフラ

インターネットを利用する世帯は約34%であり、利用していない世帯においても、今後使用したい意向は強い。

また、携帯電話不感地区への対応が着実になされ、全体の74%の世帯が携帯電話を使用している。

### (1) インターネット

インターネットを利用する世帯は回答のあった世帯の約34%を占め、前回調査時点より約9%普及が進んでいる状況。

また、条件次第で利用を希望する世帯も全体の約23%あり、将来的に使用したいとする意向は高い。

### (2) 携帯電話

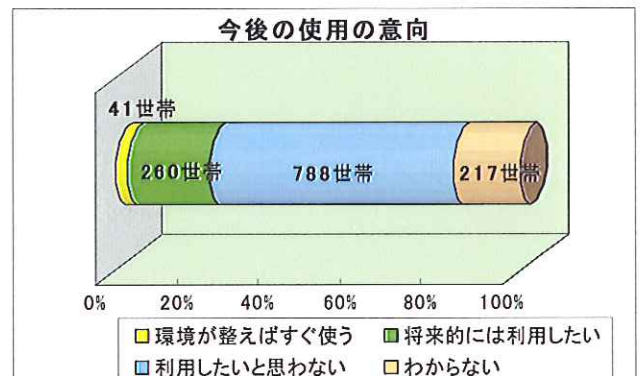
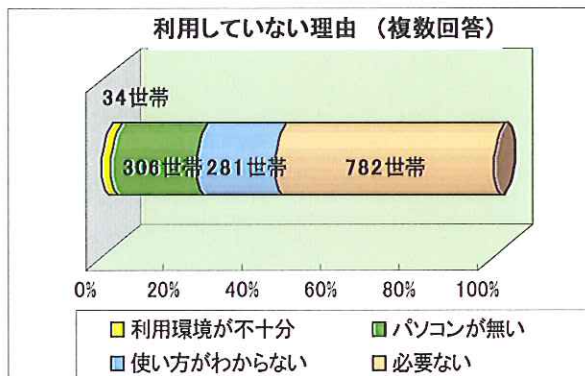
携帯電話使用世帯は回答のあった世帯の約74%（前回調査時：54%）であり、携帯電話不感地区への対応により普及が進んだと考えられる。

【参考】H18調査

- ・携帯電話を使用していない理由として「利用できない地域（不感地区）」とした割合 28%（155世帯/551世帯）

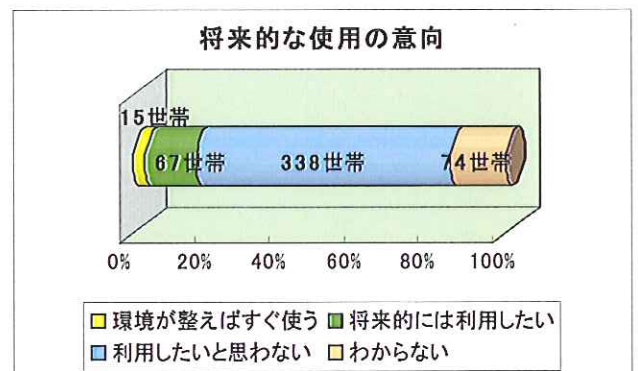
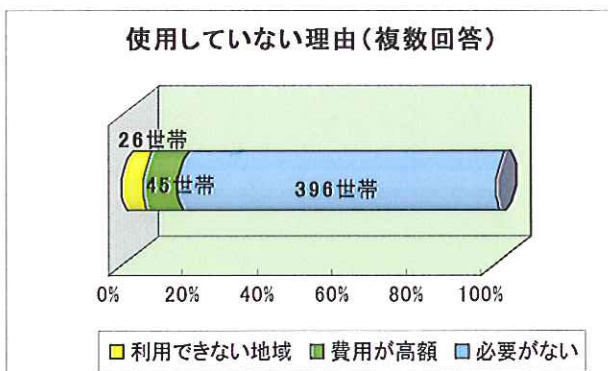
## (1) インターネットの利用状況

利用している 人数	1,388人/6,740人	回答人数の	21% (H18調査:14%)
利用している 世帯	779世帯/2,272世帯	回答世帯の	34% (H18調査:25%)



## (2) 携帯電話の利用状況

利用している 人数	3,683人/6,740人	回答人数の	55% (H18調査:39%)
利用している 世帯	1,682世帯/2,272世帯	回答世帯の	74% (H18調査:54%)





⑧ 住宅

10年以内に改修を必要としている家屋が約3割を占め、多くの世帯で住環境の改善が必要となる。

(1) 今後10年の間に改修が必要な世帯は約3割

回答のあった2,199世帯のうち、33%(740世帯)は今後10年の間に改修が必要となる。

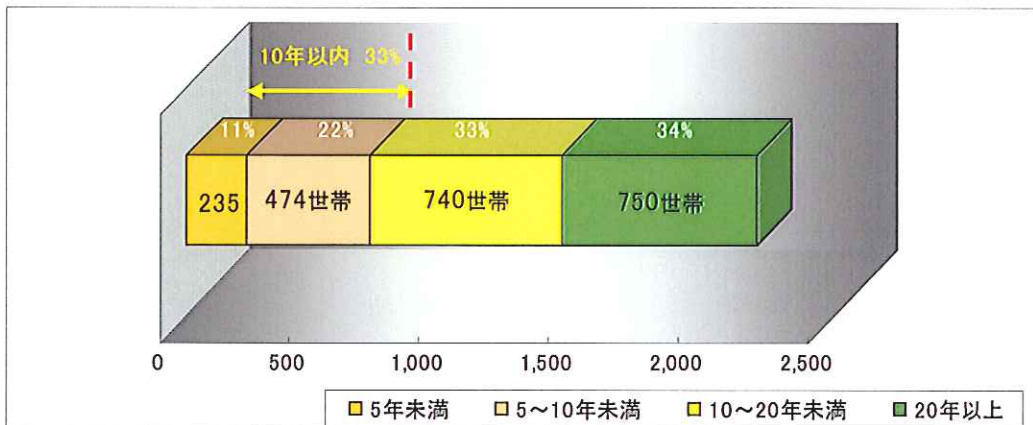
(2) 住宅の老朽化等に伴い、51集落で集落の2割以上の世帯が今後10年のうちに改修が必要となる

- ・ 今後5年以内に、集落内の20%以上の世帯で改修を必要とする集落が16集落(全体の14%)
- ・ 今後10年以内に、集落内の20%以上の世帯で改修を必要とする集落が51集落(全体の46%)

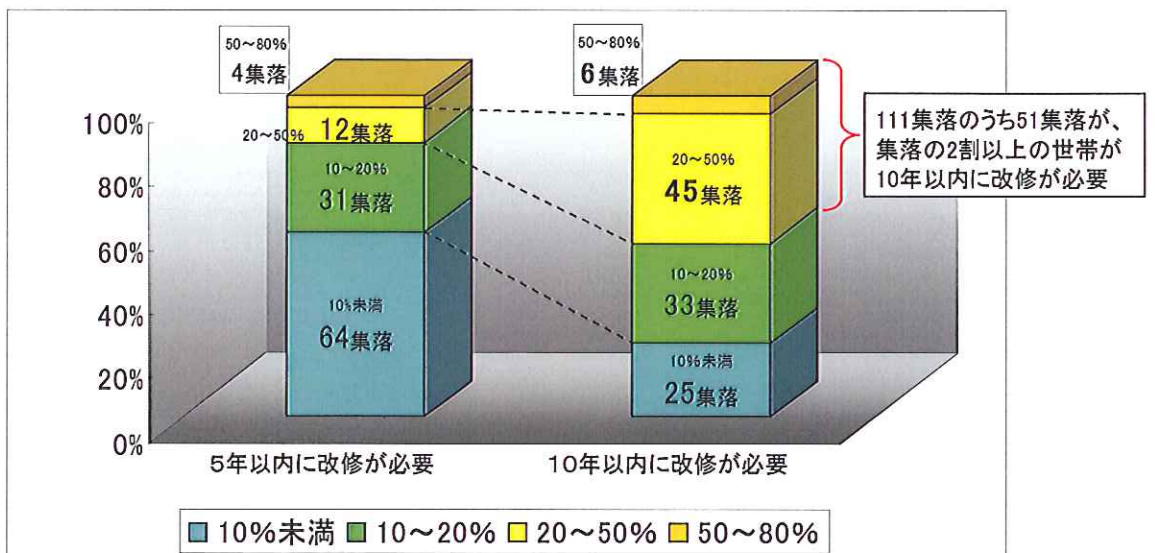
世帯の高齢化、財産管理を行う後継者の不在により、家屋の改修ができない世帯が増え、空き屋状態になる集落が増加する可能性がある。

(1) 改修が必要な世帯の状況

(問) 現在住んでいる家は、修繕しなければ住めなくなるとするのは、あと何年先ですか？



(2) 改修が必要な世帯が集落内に占める割合



⑨ 空き屋

約8割の集落で空き家が存在しており、概ね8軒に1軒が空き屋状態となっている。

空き屋は年々増加傾向にあり、景観の悪化・犯罪の温床（危険箇所の増加）・集落の活力低下などが懸念される。

(1) 空き屋率

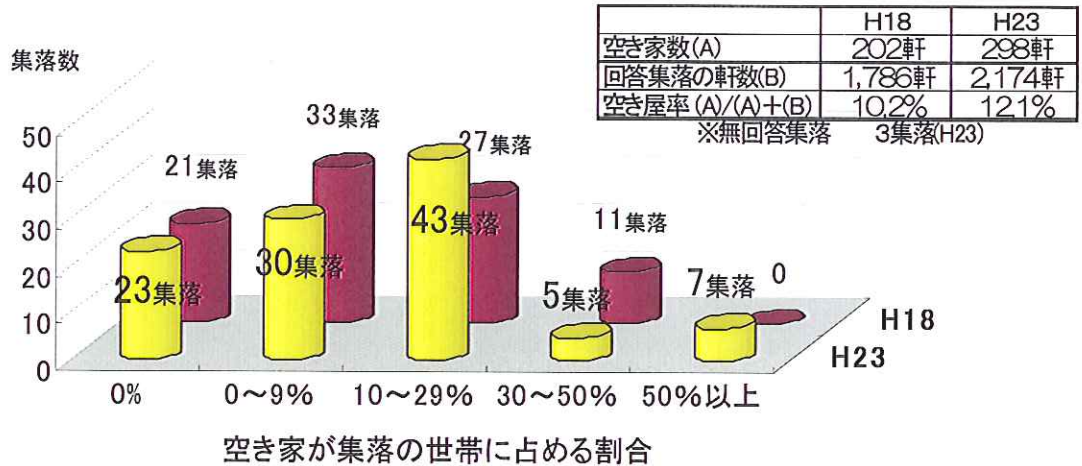
108 集落のうち約8割を占める 85 集落で空き屋が存在しており、概ね8軒に1軒（12.1%）が空き屋状態となっている。

(2) 空き家の状況

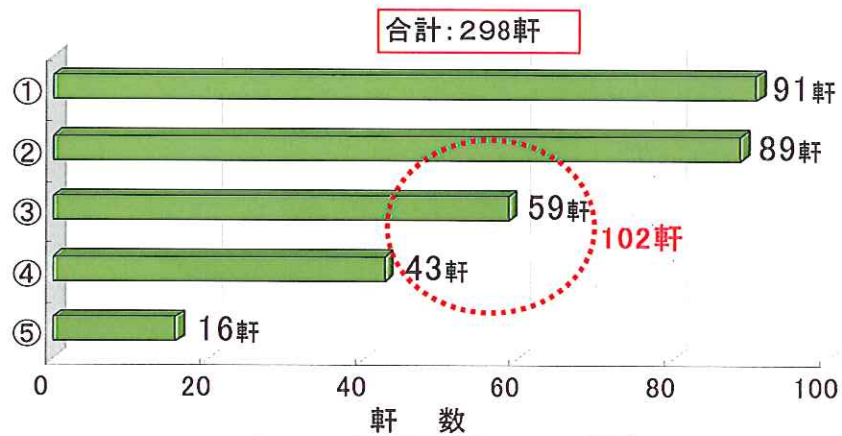
298 軒のうち 89 軒(30%)は簡易な改修により居住可能であり、改修を必要としない空き家も 91 軒(31%)あり、今後何らかの活用が可能であると考えられる。

一方で、59 軒(20%)は大規模な修繕を必要としており、必要な処置がなされない場合、景観の悪化等の問題に繋がる可能性がある。

(1) 空き屋率



(2) 空き家の状況



- 凡例
- ① 改修の必要性なし
  - ② 簡単な改修が必要
  - ③ **大きな修繕が必要**
  - ④ **居住不可能(修繕不能)**
  - ⑤ 無回答

⑩ 山林

山林を所有している世帯数は91%と高い所有率である。ただ、境界を知らない世帯が半分以上の64%を占めている。

(1) 山林所有率は高い

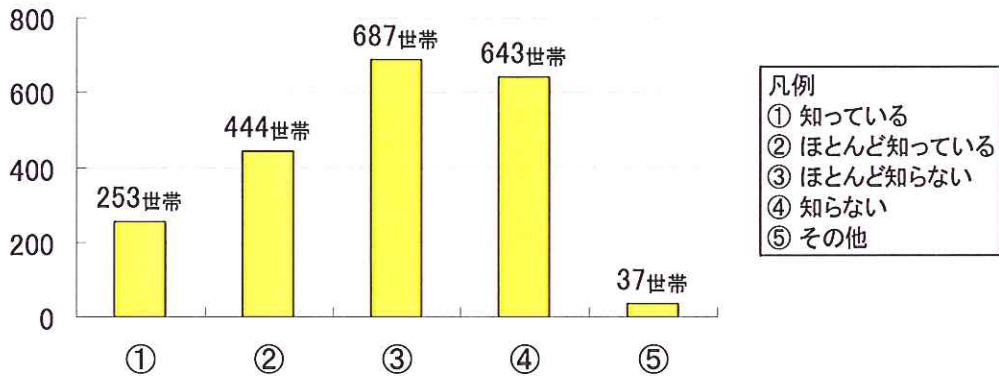
所有世帯の割合は91%と高い所有率を示している。  
(2,064世帯(所有世帯数) / 2,272世帯(回答世帯数))

(2) 後継者の6割以上が山林の境界を知らない

後継者が「境界を知らない」、「ほとんど知らない」とする世帯が2,064世帯中1,330世帯(全体の64%)であった。

683世帯(全体の58%)が後継者の無関心、山歩きをしない等で境界を伝えられない悩みを抱えている。

山林境界の後継者の把握状況

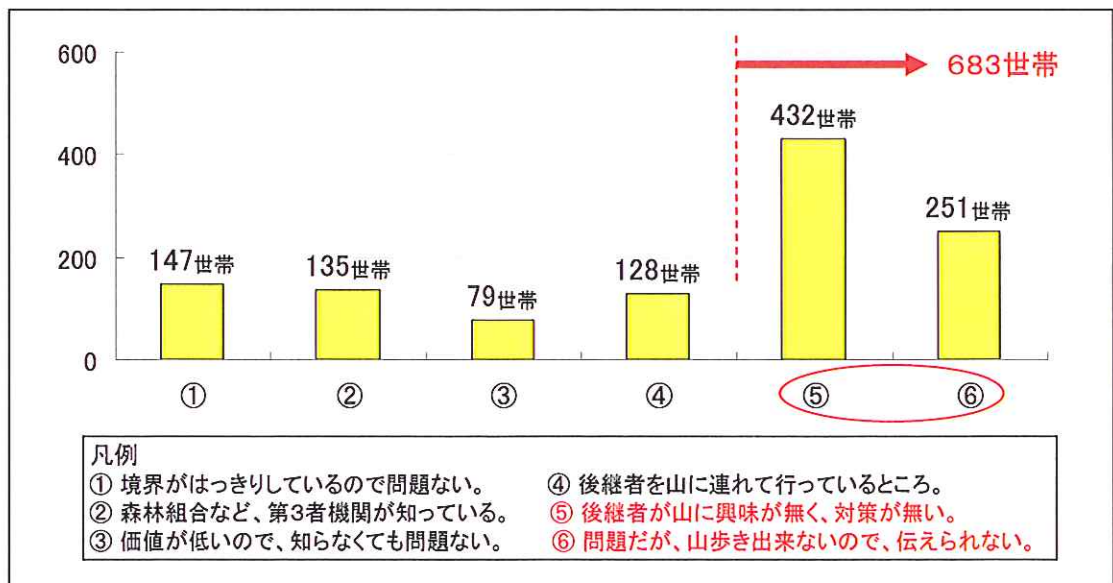


①+②「知っている」「ほとんど知っている」=697世帯(34%)

③+④「知らない」「ほとんど知らない」=1,330世帯(64%)

境界を把握していない世帯の状況

(問) 上記③、④を選択した方(1,330世帯)に伺います。後継者の山林管理にあたり問題はありますか？





## ⑪ 農地

農地をほとんど耕作していない世帯は回答のあった世帯の約 16%であり、耕作放棄地は約 8 割の集落に存在している。

### (1) 農地の耕作状況

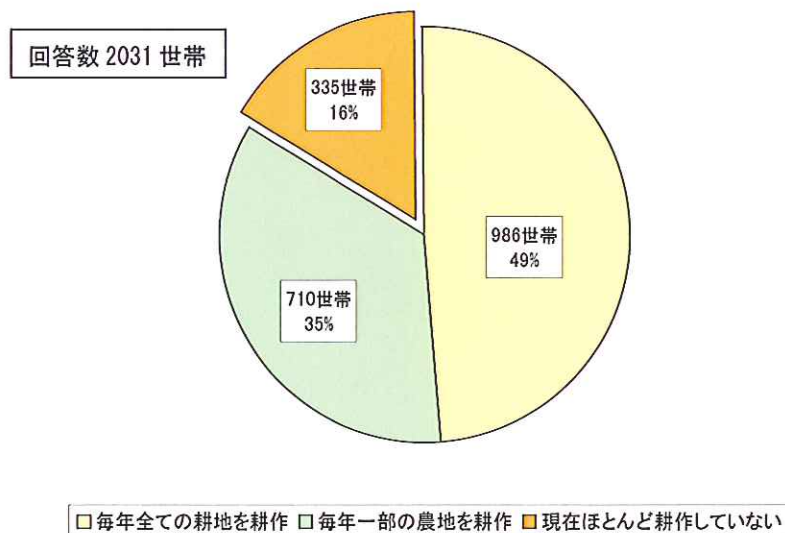
回答のあった 2,031 世帯のうち、約半数の 986 世帯が毎年全ての農地を耕作し、現在ほとんど耕作していない世帯は 16%の 335 世帯にのぼる。

今後、後継者不足等により農地の荒廃が進み、耕作放棄地となる可能性が高い。

### (2) 耕作放棄地の状況

104 集落のうち 79 集落(全体の 76%)に耕作放棄地があり、今後放棄地が増加することにより農地、水路の保全ができなくなり、下流流域の自然環境の悪化に繋がることと想定される。

#### 農地の耕作状況



#### 耕作放棄地の状況

耕作放棄地の面積の多寡はあるものの、回答のあった 104 集落のうち 79 集落(全体の 76%) に耕作放棄地が存在している。

□ 耕作放棄地「有」と回答した集落	79 集落
□ 耕作放棄地「無」と回答した集落	25 集落
□ 未回答	7 集落

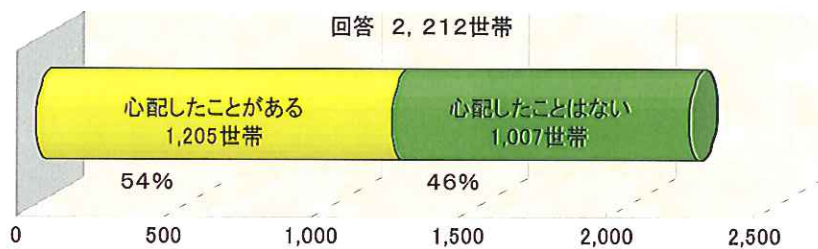
⑫ 暮らしの安心

災害時に孤立する心配を感じている世帯が半数あるにもかかわらず、災害時に家族と連絡が取れないときのことを相談したことがある世帯は少ない。  
 犯罪に巻き込まれたり、危険を感じたことがあると答えた世帯は少ないが、詐欺、空き巣被害の不安を感じる割合は高い。

災害時の孤立を心配したことがある世帯は54%と半数以上になる。  
 反面、災害時に、家族と連絡が取れない場合を想定して予め家族内で相談している世帯は僅か30%の世帯に過ぎない。  
 犯罪に巻き込まれたり、危険を感じたことがある世帯は少ないが、詐欺、空き巣等の被害を不安視する割合は高い。

住民の暮らしの安心の状況

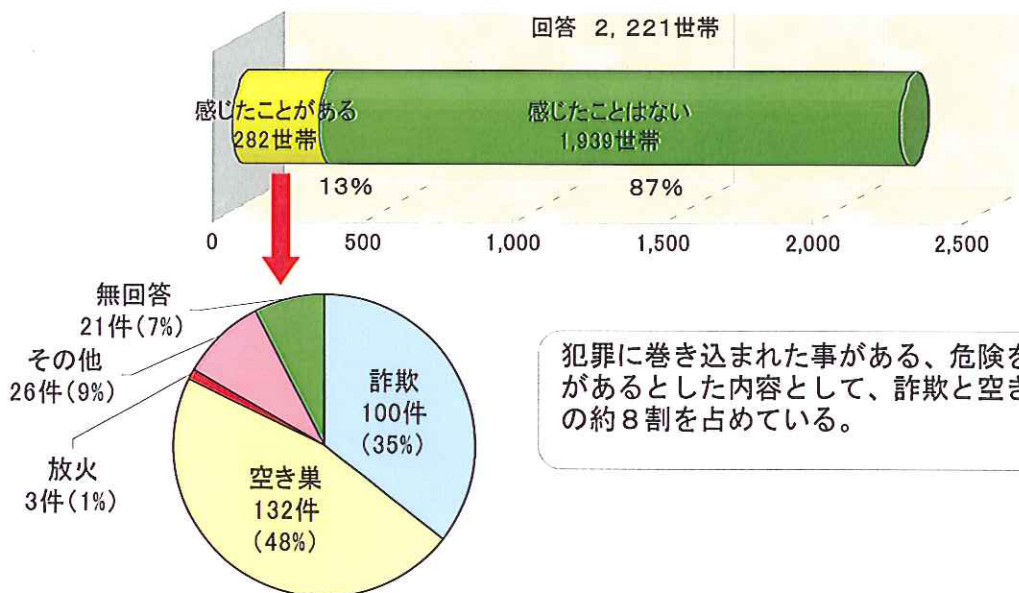
(問) 災害時に孤立する心配を感じたことはありますか？



(問) 災害時に、家族と連絡が取れないときのことを相談したことがありますか？



(問) 犯罪に巻き込まれたり、危険を感じたことがありますか？



犯罪に巻き込まれた事がある、危険を感じた事があるとした内容として、詐欺と空き巣が全体の約8割を占めている。

⑬ 消火・救急

消火・救急訓練を受講している世帯、人数は着実に増加している。

(1) 消火訓練

世帯数の60%にあたる1,368世帯が消火訓練を受講しており、76集落では5割以上の世帯が受講している。

また、受講人数は2,039人で、全集落の世帯人口の約3割を占める。

【参考】H18調査との比較

- ・受講世帯数(世帯割合) 986世帯(46%)→1,368世帯(60%)
- ・受講人数(人数割合) 1,403人(21%)→2,039人(30%)

(2) 救命救急訓練

受講世帯割合は41%(925世帯)であり、35集落では5割以上の世帯が受講している。

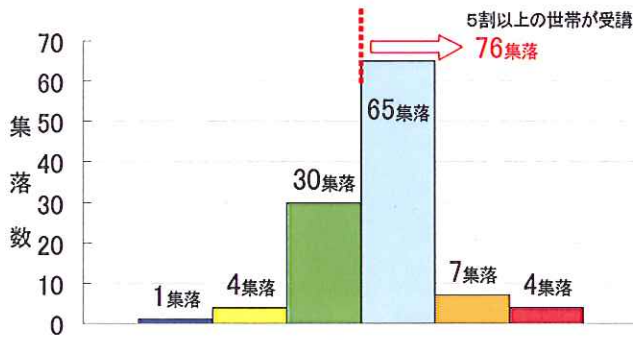
また、受講人数は全集落の世帯人口の約2割の1,384人が受講している。

【参考】H18調査との比較

- ・受講世帯数(世帯割合) 686世帯(32%)→925世帯(41%)
- ・受講人数(人数割合) 1,069人(16%)→1,384人(21%)

(1) 消火訓練の受講世帯・人口割合

世帯数【受講世帯数 1,368世帯(60%)】

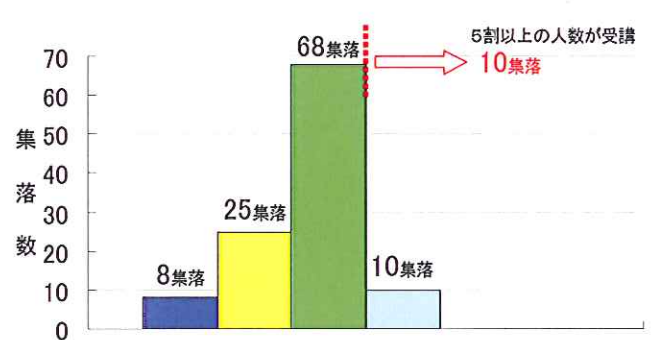


各集落の消火訓練を受講した世帯割合

凡例(受講した世帯数/各集落の回答世帯)

- 10%未満
- 10~20%未満
- 20~50%未満
- 50~80%未満
- 80~90%未満
- 90%以上

人数【受講人数 2,039人(30%)】



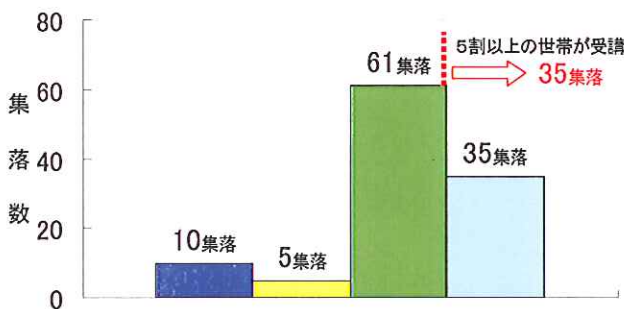
消火訓練の受講人口が集落人口に占める割合

凡例(受講した人口/各集落の回答人口数)

- 10%未満
- 10~20%未満
- 20~50%未満
- 50~80%未満
- 80~90%未満
- 90%以上

(2) 救命救急訓練の受講世帯・人口割合

世帯数【受講世帯数 925世帯(41%)】

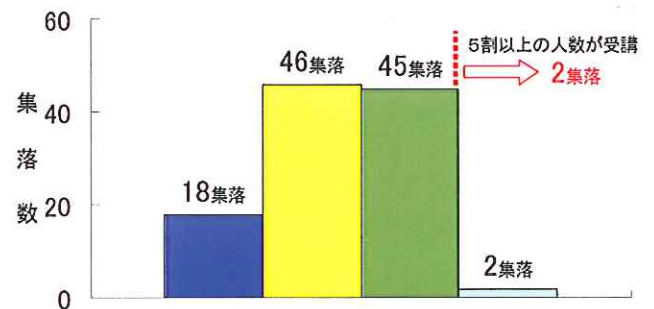


各集落の救命救急訓練を受講した世帯割合

凡例(受講した世帯数/各集落の回答世帯数)

- 10%未満
- 10~20%未満
- 20~50%未満
- 50~80%未満

人数【受講人数 1,384人(21%)】



救命救急訓練の受講人口が集落人口に占める割合

凡例(受講した人口/各集落の回答人口数)

- 10%未満
- 10~20%未満
- 20~50%未満
- 50~80%未満



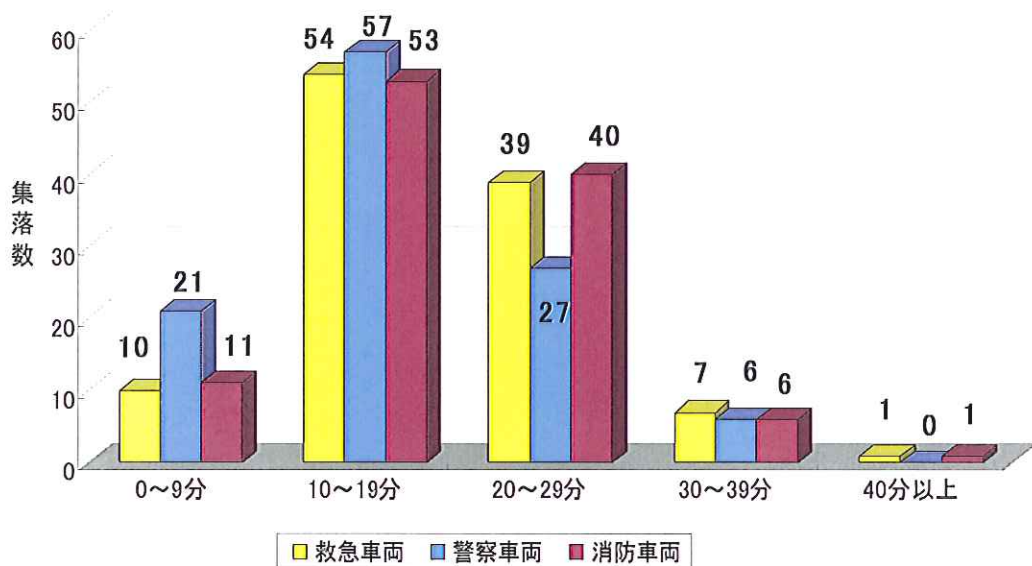
⑭ 緊急車両の状況

緊急車両が到達する時間は、概ね10分～19分程度となっている。

■ 緊急車両の到達時間

緊急車両（救急車両、警察車両、消防車両）が到達する時間は、概ね10～19分の間に到達する集落が一番多かった。

□ 救急車両・警察車両・消防車両到達時間



□ 救急車両到達時間 (中央値) 15分  
 □ 警察車両到達時間 (中央値) 15分  
 □ 消防車両到達時間 (中央値) 15分

(※中央値：複数データの値の順番のちょうど中央に位置する値)

⑫ 仕事・収入の状況

世帯収入のうち、これまで給与収入で生計を立てていた世帯が多かったが、今回の調査で初めて年金収入で生計を立てている世帯が上回った。  
また、現在従事している仕事のうち、5年以内に離職する割合も39%であった。

(1) 世帯収入の状況

世帯収入では年金収入が一番多く、回答世帯の44% (990世帯/2,240世帯) を占め、次に給与収入40%(885世帯/2,240世帯)であった。

前回調査と比較し年金収入が給与収入を上回り、世帯の高齢化が進行していることが分かる。

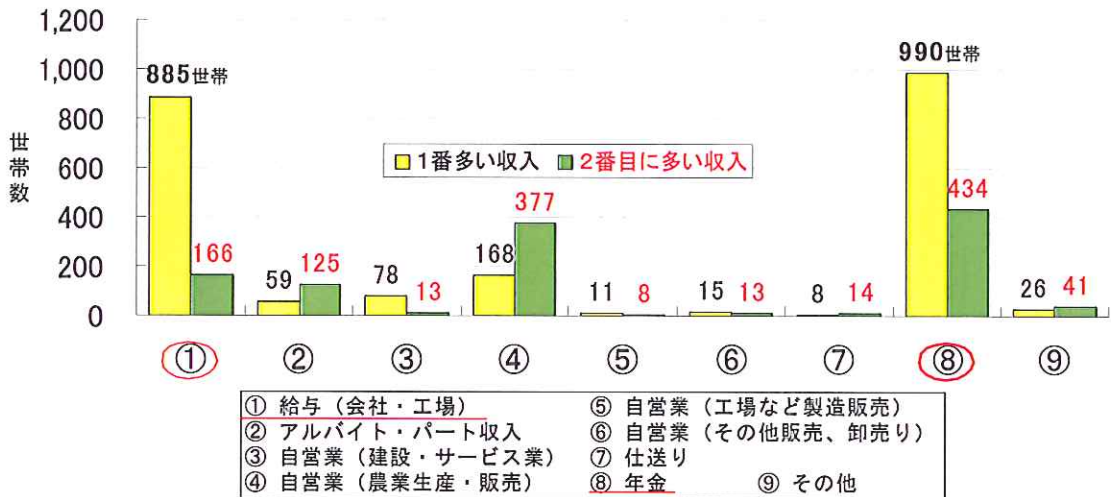
(2) 主な収入が年金である世帯の集落内に占める割合

主な収入が年金である世帯の集落内に占める割合が50%以上の集落が47(全体の42%)あり、H18調査と比較して20集落増加(27集落→47集落)している。

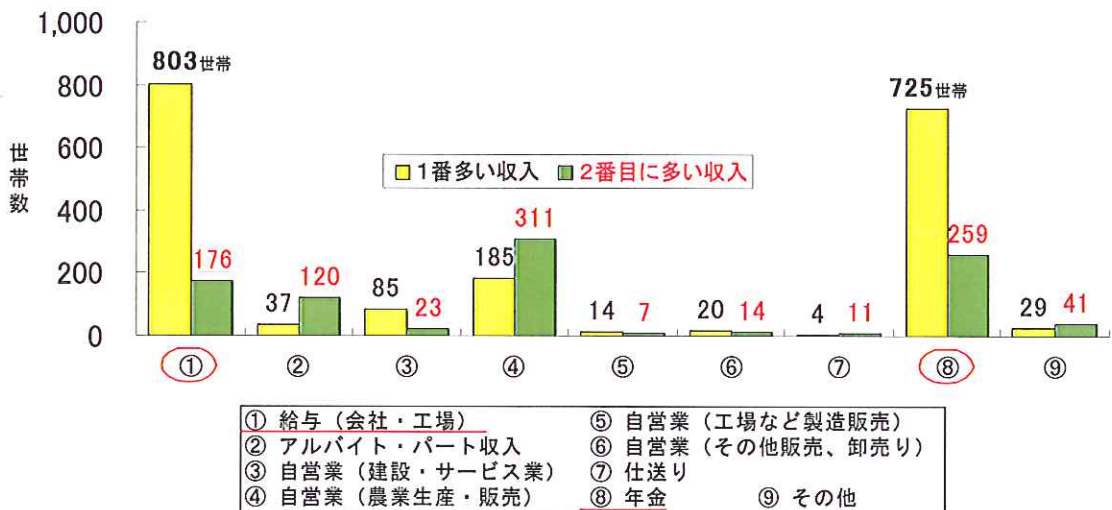
(3) 5年以内に離職する者の割合

現在従事している仕事について、5年以内に離職する方の割合は39%(494世帯/1,267世帯)となっている。

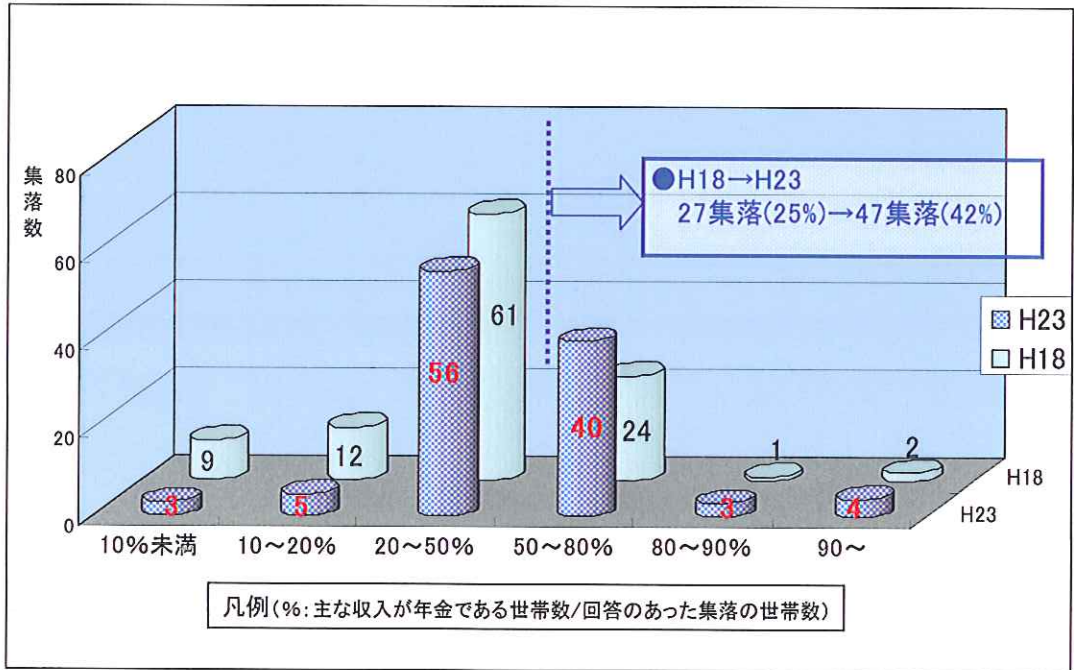
(1) 世帯収入の状況 (H23)



【参考】世帯収入の状況 (H18 調査結果)

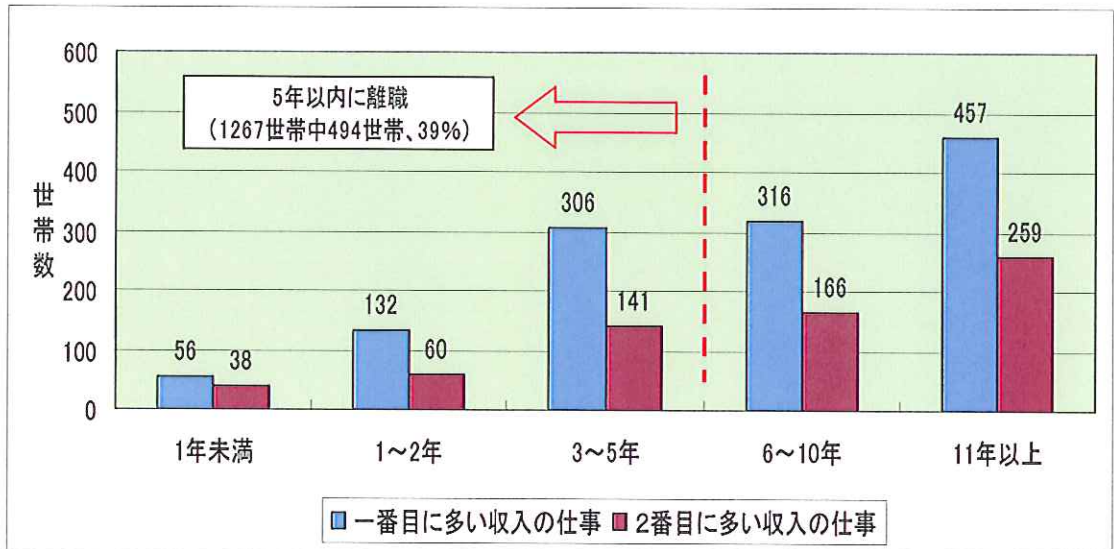


**(2) 主な収入が年金である世帯が集落内で占める割合**



**(3) 5年以内に離職する者の割合**

(問) 今の仕事はこの先あと何年続けられると感じていますか？





⑩ 起業の意向

起業に対して前向きに検討している世帯はわずか3%に過ぎない。

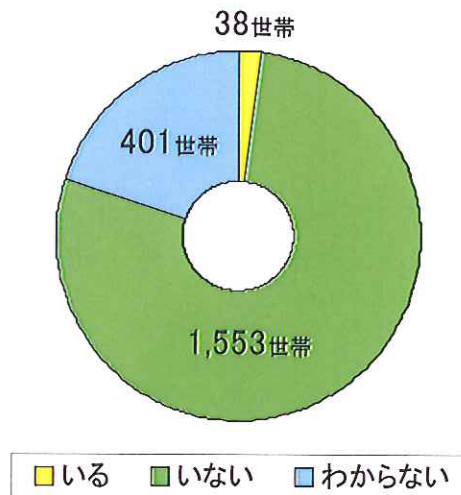
○ 起業の意向

これから地域で起業をしてみたいと回答した世帯は38世帯(2%)であり、取組意向のない方のうち、「いずれ取り組みたい」とした世帯は15世帯あった。

合わせて53世帯(3%)の世帯が、起業に対し前向きに検討している状況。

□ 起業の意向について

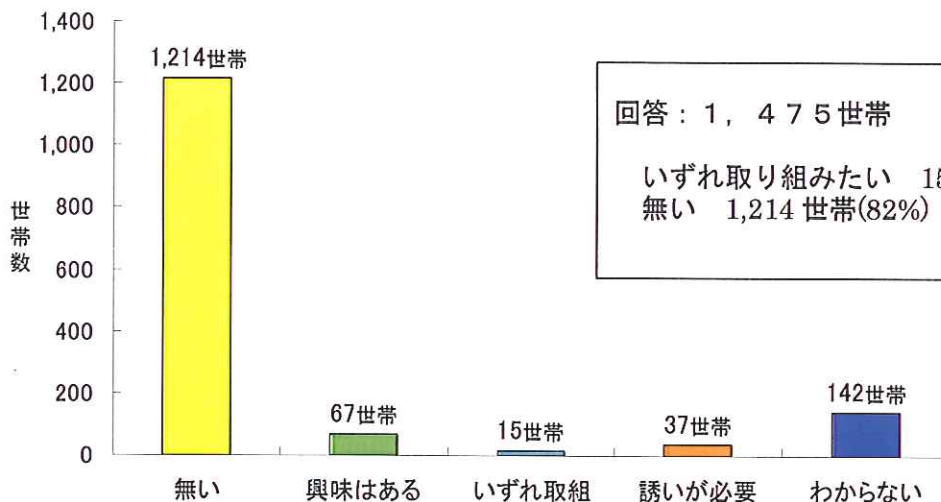
(問) これから地域で起業をしてみようという方は世帯の中にいますか？



回答：1,992世帯

起業の意欲のある方 38世帯(2%)

(問) 上記の「いない」と回答のあった1,553世帯の方の中で、これから起業してみたいという気持ちはありますか？



回答：1,475世帯

いずれ取り組みたい 15世帯(1%)  
無い 1,214世帯(82%)

⑩ 助け合い

ボランティアの受入を行った集落、受入を希望する集落は比較的少ない。自宅、生活道路の雪かきは各集落、各世帯で対応している状況であるが、高齢化等に伴い、今後対応に苦慮することが想定される。

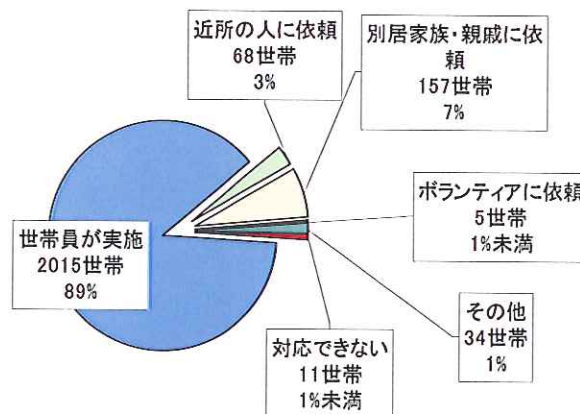
- (1) ボランティアの受入、受入希望  
ボランティアを受けた経験のある集落は13集落あり、今後の受入を希望した集落は25集落あった。
- (2) 積雪時の雪かき対応  
自宅の雪かきへの対応として、全体の89%が「世帯員が実施する」と回答しているが、11世帯と少数ながら対応できない世帯がある。  
一方、私道など生活道路の雪かきは、約2割の集落で対応できていない状況でもある。今後、集落内、世帯内で除雪していた集落が、世帯の高齢化等に伴い、対応に苦慮することが想定される。
- (3) 独居世帯の見守り  
65歳以上の独居世帯の方が外部の方と接触する機会は概ね毎日～週数回あり、別居家族や近所の方々の声かけもなされている。  
一方で、わずかながら「接触なし」、「声かけなし」とした世帯もあった。
- (4) 自主防災組織の設置  
多くの集落で設置されているが、一部未設置の集落もある。高齢化に伴い、維持・存続に困難な状況に直面する集落も出てくると想定される。

⑪ (1) ボランティアの受入、受入希望

● ボランティアを受けた経験のある集落	13集落/111集落
【内容】	
・ 農作業、水路掃除等の支援	5集落
・ イベント（祭等）の支援	3集落
・ 有害鳥獣対策の支援	2集落
・ 除雪支援	2集落
・ 森林保全の支援	1集落
● ボランティアの受入希望のある集落	25集落/111集落
【内容】	
・ 除雪支援	8集落
・ 農作業、水路掃除等	7集落
・ 集落内道路、河川の維持管理	3集落
・ 有害鳥獣対策	2集落
・ イベント（祭等）	2集落
・ 独居老人の生活支援	2集落
・ 災害時対応	1集落

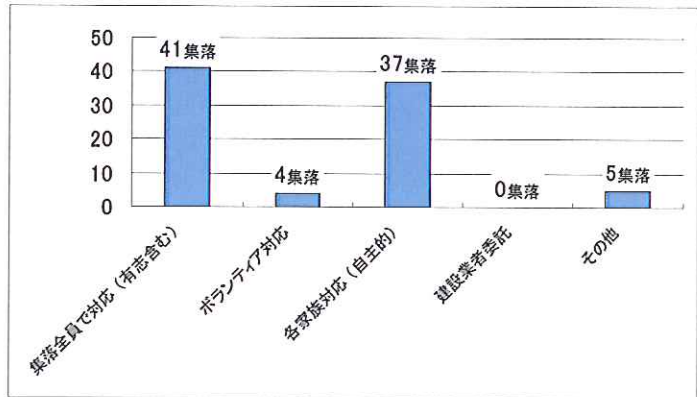
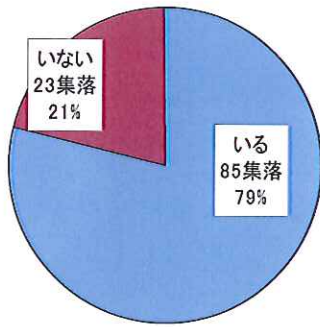
⑫ (2) 積雪時の雪かき対応

(問) 積雪時、自宅の雪かきは主にどのように対応されていますか？



※一部、複数回答している世帯がありますが、そのまま計上。

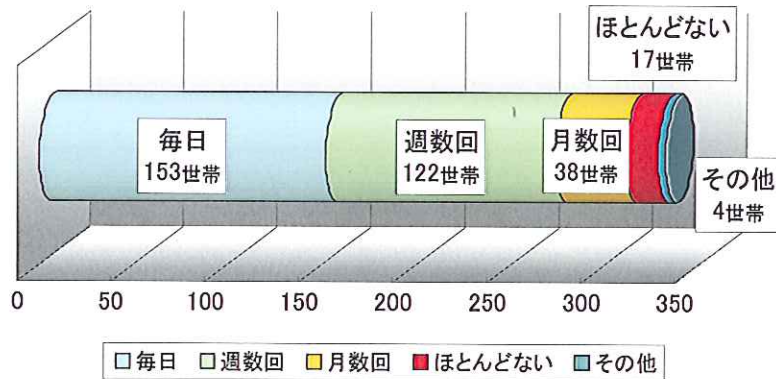
(問) 集落の中で、私道などの生活道路の除雪を行う人はいますか？  
 いる場合、どのような方が対応されていますか？（複数回答）



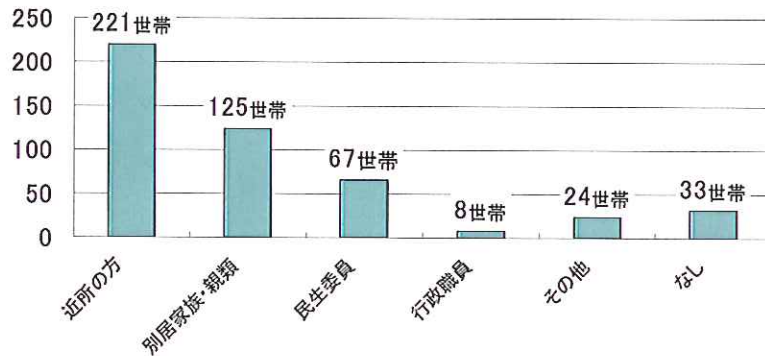
### (3) 独居世帯の見守り

(問) (65歳以上の独居の方対象) 外部の方との接触はどの程度ありますか？  
 また、訪問や電話連絡など、定期的に声かけをされている方はいらっしゃいますか？

65歳以上の独居世帯の外部接触



声かけの状況（複数回答）



### (4) 自主防災組織の設置状況

- 設置済 76集落 (68%)
- 未設置 33集落 (30%)
- 未回答 2集落 (2%)



⑩ 集落の状況

子供の遊び場は地元管理が多く、高齢化に伴い、維持管理等が困難になることが想定される。

また、道路整備の必要性を感じる方の多くは、道路の拡幅、融雪装置の整備を希望している。

(1) 子どもの遊び場

子どもの遊び場がある集落は30集落で、うち25集落では地元管理。

(2) 不法投棄の状況

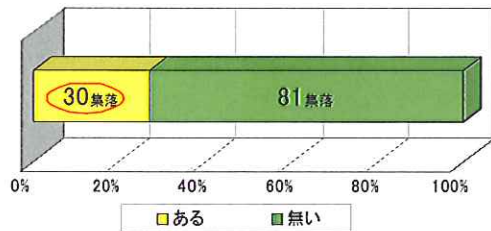
38集落において不法投棄が発生している。

(3) 道路整備の要望

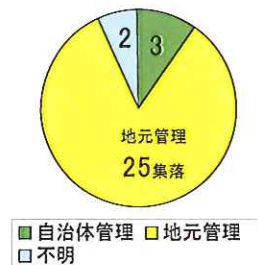
道路整備の要望のうち、道路の拡幅、融雪装置の整備、落石防止措置の順で多い。

(1) 子どもの遊び場

1) 子どもの遊び場の有無について



2) 遊び場の管理者

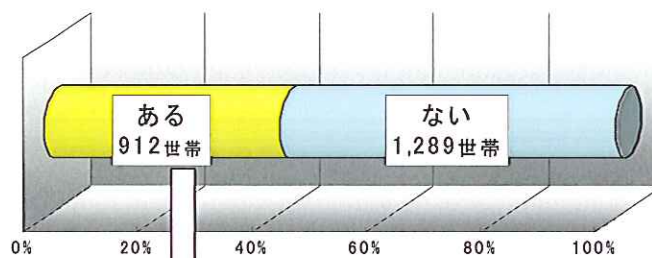


(2) 不法投棄の状況

- ・不法投棄事案があったとした集落は38集落。  
(東部：18集落、中部：11集落、西部：6集落、日野：3集落)
- ・電化製品、家財道具、廃タイヤの投棄が多い。

(3) 道路整備の要望

(問) 日ごろ、通勤や買い物時に利用している道路が危険なので、整備してほしいと感じたことがありますか？



具体的な整備要望 (複数回答)

